

野村万作 芸歴九十年記念

能・狂言への誘い



能『高砂』

香川靖嗣

狂言『靱猿』

野村万作

夫婦愛と長寿を寿ぐ、世阿弥作の名曲『高砂』と
緊迫から愁嘆、そして和楽へと劇的に展開する狂言『靱猿』
能・狂言の名作二番をお楽しみください。

令和7年
(2025年)

2/2

日

14:00開演 (13:15開場)

練馬文化センター大ホール

〒176-0001東京都練馬区練馬1-17-37

西武池袋線、西武有楽町線、都営地下鉄大江戸線「練馬駅」中央北口より徒歩1分

練馬文化センタープレイガイド

●予約電話
03-3948-9000 (10:00~17:00)

●WEB(要利用登録[無料])
<https://www.neribun.or.jp/nerima.html>

●窓口
練馬文化センター・大泉学園ゆめりあホール (10:00~20:00)

※窓口販売は、10月26日(土) 10:00より行います。ただし、予約初日に予定枚数が終了した場合、取扱いはございません。

※予約初日は座席をお選びいただけません。

※車いす席、ヒアリングループ受信機をご希望の方は、予約電話までお申し込みください。

※未就学児のご入場はご遠慮ください。

※本公演は公演中止、延期以外でのチケットの払い戻しはいたしません。あらかじめご了承ください。



練馬文化センター
ホームページ

チケット料金(全席指定)

S席(1階席) **7,000**円 A席(2階席) **5,000**円 車いす席 **3,500**円

練馬文化センター友の会 ねりぶんフレンズ会員(2枚まで)

S席 6,300円 A席 4,500円 車いす席 3,150円

先行販売申込期間(抽選)

●ねりぶんフレンズ優先

令和6年10月1日(火) 10:00~10月11日(金) 17:00

●練馬文化センターWEB先行

令和6年10月17日(木) 10:00~10月22日(火) 17:00

一般発売

令和6年10月25日(金) 10:00~ 電話・WEB予約受付開始

[主催] 万作の会/練馬文化センター(公益財団法人練馬区文化振興協会)

[問合せ] 練馬文化センター

電話 03-3993-3311 メール info-neri@neribun.or.jp

同日発売

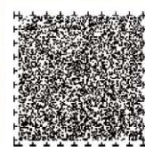
プレ講座を開催します!

【能楽講座】12月22日(日) 14:00開演

会場: 練馬区立生涯学習センター ホール

講師: 香川靖嗣 / 聞き手: 三浦裕子

詳細は裏面をご覧ください→



音声コード

野村万作 芸歴九十年記念

能・狂言への誘い

令和七年二月二日(日) 練馬文化センター大ホール

解説 塩津 圭介

狂言 鞆猿

大名 野村 万作

太郎冠者 高野 和憲

猿曳 中村 修一

子猿 中村 慶一

後見

深田 博治
月崎 晴夫

シテツレ 老姥 佐々木多門

後シテ・住吉明神 前シテ・老翁 香川 靖嗣

能 高砂

ワキ 野口 能弘

大鼓 柿原 弘和 太鼓 桜井 均
小鼓 幸 正昭 笛 一噌 幸弘

ワキツレ 従者 野口 琢弘

ワキツレ 従者 則久 英志

間狂言 高砂の浦人 内藤 連

後見 中村 邦生

谷 友矩

地謡

佐藤 寛泰 金子敬一郎

大島 輝久 長島 茂

内田 成信 大村 定

塩津 圭介 友枝 雄人

— 休憩 —

能 高砂 (たかさご)

能『高砂』は、「相生の松」に寄せて夫婦愛と長寿を愛で、人生を寿ぐ人気の演目です。かつては結婚式で謡われることも多く、祝言の曲としてよく知られています。

前場では、九州から阿蘇の神主・友成(ワキ)が都へ上る途中、播磨国(現在の兵庫県)高砂の浦を通りかかり、松の木蔭を掃き清めている老夫婦に高砂の松の謂れを尋ね、「高砂と摂津国(現在の大阪府)の住吉とは国を隔てているのに、何故相生の松と言うのか？」と問いかけます。老人(前シテ)は、「自分は住吉、姥(ツレ)は高砂に住む夫婦だが、心が通じていれば夫婦の愛は不変である」と言い、「相生の松とは古今変わりの御世を寿ぐ例えであり、平和の象徴である」と答えます。この老夫婦、実は相生の松の精だったので。そして老人は「住吉で待っている」と言い残し、舟に乗って沖に出て行きます。(中入り)

後場では、奇特の思いを持って舟に乗った友成が住吉に着くと、住吉明神が若い男神の姿で現れます(後シテ)。住吉明神は春の景色を讃え、御世を寿ぎ、テンポの速い神舞を鮮烈に舞い、目出度く終わります。

前シテの老体は写実の老人ではなく、神松の化身としての品位、威厳のある姿を示しており、その舞にも爽やかな強さがあります。能を大成した世阿弥の作であり、時代を超えて親しまれる、明るさと気品に満ちた名作をご堪能ください。

狂言 鞆猿 (うつぼざる)

大名が太郎冠者を伴い狩りに出かける道中、毛並みのよい子猿を連れた猿曳に会う。かねて鞆(矢を携帯するための道具)に猿皮を張りたいと思っていた大名は、その猿の毛皮を譲れと迫る。理不尽な要求に一度は拒んだ猿曳だが、弓矢での威嚇に抗えず、ついに了承する。猿曳は泣く泣く猿に因果を含め、一打ちに殺そうとするのだが…

緊迫から愁嘆、そして和楽へと劇的な構成を持つ名作です。

「猿に始まり狐に終わる」という言葉がありますが、野村家では三〜四歳の時にこの『鞆猿』の子猿役で初舞台を踏む習慣があります。猿曳が謡う猿唄は、中世から近世初期の小歌(流行歌)のメドレーです。



プレ講座 能楽講座

「能・狂言への誘い」と同日発売!

「能・狂言への誘い」で上演する世阿弥作の傑作・能『高砂』を中心に、能楽の魅力をじっくり解説します。講師は今回『高砂』のシテ(主役)を勤める香川靖嗣師。聞き手には武蔵野大学教授の三浦裕子さんをお迎えし、演者ならではの経験を踏まえた、わかりやすいお話をお伺いします。

[日 時] 令和6年12月22日(日) 14:00開演(13:30開場)

[会 場] 練馬区立生涯学習センター ホール 東京都練馬区豊玉北6-8-1

[講 師] 香川靖嗣 能楽師・シテ方(喜多流) [聞き手] 三浦裕子 武蔵野大学文学部教授・同大学能楽資料センター長

[料 金] 全席自由 500円 ※わりぶんフレンズ会員割引対象外 ※未就学児入場不可

[主 催] 練馬文化センター(公益財団法人練馬区文化振興協会)



香川靖嗣



三浦裕子